



ちばの学童保育

2014年11月9日発行103号

本号の紙面	
全国指導員学校報告	1頁
情勢／ほいく誌紹介	2頁
学童保育紹介／モニター	3頁
全国学童保育研究集会他案内	4頁

発行者 千葉県学童保育連絡協議会 船橋市本町3-4-3 千葉保育センター内
 TEL047-424-8102 FAX047-424-8108 e-mail chibagakudo@nifty.com

千葉県参加者数58名！参加者数4056名

第49回 全国学童保育研究集会 in 岩手

2014年10月11日(土)12日(日)今年は震災後
 はじめて、被災地岩手県での開催となりました。復旧・
 復興の取り組み中のなか、「子ども・子育て支援新制度」
 を目前にどう学童保育の生活を豊かにしていくか、参
 加者みんな学び語り合いました。特別報告として被災
 した岩手県・宮城県・福島県から学童保育の被害状
 況や課題とともに、自身の思いを語っていただきました。
 職場の仲間が大切な人を失い生きる希望を失いか
 けていた中、自身も悩みながら指導員という子どもたちの命を預かる仕事を必死
 に続けている話しなど、会場では涙を流しながら聞く人も多くいました。



全体会

記念講演は、北海道大学 庄井良信氏による『「いのち」をケアし、育むという
 ことー学童保育がつむぐ未来への希望 より』。安心し、ありのままの自身を認
 め、一人ではなく人とのつながりで支え合うことの大切さを知ることができ、ま



子ども達による歓迎会

た自身の子育て体験談は庄井氏の優
 しい人柄が表れていて、暖かい気持
 ちにさせてくれました。2日目の分
 科会では、各テーマで学習、交流す
 ることができました。来年は『大阪
 府』開催です。



来年は大阪府

学童保育をめぐる最近の動き



2014年5月の調査で千葉県内の学童保育数は956か所となり、昨年より10か所増えました。また入所児童は、4万1684人となり、初めて4万人を超え昨年よりも2107人増えました。未だに不足している学童保育に新制度が如何に対応出来るか見守って行きます。

現在、厚生労働省が設置した「放課後児童クラブの質の向上のための研修企画検討会」で、指導員の認定資格研修の検討が行われています。2014年9月27日に開かれた第5回の検討会で認定資格研修の内容等がほぼ固まり、9月30日付で厚生労働省から各都道府県に「都道府県認定資格研修ガイドライン（案）」が示され、2015年4月から実施できるよう準備を促しています。都道府県でも2015年4月からの実施に向けて実施体制の検討がスタートしています。千葉県は2016年度より開始する予定です。

第5回の検討会から、政府が子育て分野に従事する人材確保するために新たにつくる「子育て支援員（仮称）」の専門研修（放課後児童コース）の研修内容を検討する「子育て支援員（仮称）研修制度に関する検討会」も兼ねることになったことから、「子育て支援員（仮称）研修制度に関する検討会」の「第2回専門研修ワーキングチーム（放課後児童クラブ）」としても開催されました。この日の検討課題のひとつは、「子育て支援員（仮称）専門研修（放課後児童コース）」のカリキュラム案の検討（提案は添付の「資料2 専門研修（放課後児童コース）のカリキュラム案」）でした。

子育て分野全体に共通する「子育て支援員基本研修」（「8科目8時間」でまとまる）を受けることに加えて、学童保育で指導員として働く場合に、有資格者（放課後児童支援員）ではない「補助員」が得ることが望ましいとされる「専門研修（放課後児童コース）」のカリキュラム案を検討し、ほぼ添付の提案（6科目9時間で、カリキュラムは放課後児童支援員の認定資格研修のカリキュラム案となっている16科目24時間をコンパクトにした内容とすること）でまとまりました。これは補助員であっても、有資格者と同じ項目・内容の研修を受ける必要があるとの理由からです。

指導員の質の向上としての取組は保護者からは大きく期待される一方、膨大な研修を都道府県が計画して行くことに不安も隠せません。

日本の学童ほいく

日本で唯一の学童保育に関する専門誌です。月刊で発行。1冊330円(送料76円)でお届けします。

学童保育に関するありとあらゆる情報が満載。全国で4万人の人が購読しています。



11月号表紙

11月号特集『学童保育指導員の専門性と資格』です。皆さんにもぜひ読んでもらいたい1冊になっています。

- 今回の特集は「学童保育指導員の専門性と資格」です。「学童保育の指導員にはどのような専門的知識や技量が求められるのか」「資格とはなにか」について、を学ぶことができます。そして、現在国が進めている「学童保育指導員の資格」についての動きをわかりやすく読むことができます。



わたしたちの学童保育所



我孫子市学童保育指導員組合 上杉裕子

我孫子市の学童保育は公設公営で、スタッフ（指導員）は嘱託職員と臨時職員で構成されています。公設公営を機に市連協から独立して指導員会として活動しましたが、その後組合を結成して14年となりました。組合はスタッフの労働条件の改善や、保育内容の充実等を大きな柱として活動しています。

我孫子市は学童保育と子どもの居場所（あびっ子クラブ）の2つを運営しており、スタッフはその両方で勤務しています。他市にはない働き方ではないかと思えます。私たちの仕事の負担は大きなものがありますが、どちらの事業の子どもたちも、安全で安心して過ごせる場所を提供できていることに自信を持ちたいと思っています。来年度から大きく変わろうとしている制度に対応できるよう準備が進められていますが、待機児童・クラス分け・スタッフの配置・資格研修・あびっ子クラブの増設（3ヶ所）等、問題は山積みです。

私たちの組合は仲間のつながりを大切に、部会活動（学習・広報）、サークル活動（ハンドベル・折紙）で交流し、お互いの情報交換の場としています。スタッフが元気でなければ子どもたちが安全で安心して生活できる場を保障できないと思えます。これからも元気に働き続けられる職場づくりをめざして活動を続けます。



「日本の学童ほいく」活動・感想

千葉市学童保育連絡協議会 指導員 井上隼人

じっくりと読む時間がなかなか取れませんが、届いた時には、一通り目を通すようにしています。よく読むのが「講座」のコーナー。最近まで千葉県の研修でもおなじみの小淵隆司さんの連載がありましたが、一番先に読んでいます。それからその時々に関心のあることの内容を見直して読んでいます。最近は、2013年12月号の「高学年にとっての学童保育」。新制度に向けて千葉市でも来年度以降の高学年受入れの体制について示されてきているので、改めて見直しています。また、2014年7月号の「子どものけんか」にある特集記事は印象に残っています。「けんかを責めるより理由を聞いてあげるほうがいいのか」や「子どもたちの思いに耳をかたむけて」といった記事の表題のフレーズは、日々流れていく日常の中で、一つ間をおいて考えるきっかけをあたえてくれました。ほいく誌には、色んな記事があります。これからも自分の関心のある記事を見直しながら読んでいきたいと思えます。

第34回千葉県学童保育指導員学校

日時 2014年12月7日(日)

分科会 午前の部 10:00~12:40

午後の部 13:30~16:10

場所 四街道市文化センター

午前午後の各6講座、1日で12講座あります。「保護者との関わり」「あそび」や「今後の情勢」についての講座も開かれます。有意義な1日となるよう皆さんの積極的な参加をお待ちしています。詳細はチラシをご確認ください。

第38回 千葉県学童保育研究集会

日時が決定しました！

2015年2月22日(日) 市川市勤労福祉センター

9月21日(日)第1回実行委員会が行われました。はじめに自己紹介を行い、当日の役割分担についての簡単な説明やどのような分科会の内容がよいかなど話し合いました。

研究集会は、学童保育の充実のため、学童保育に関わる保護者・指導員など皆が学童保育に関わる様々なテーマについて交流、学習します。

第40回 全国学童保育指導員学校 南関東

2015年は千葉県で開催です。10月14日(火)第1回小運営委員会が行われました。これから、千葉県・東京都・神奈川県の実行委員が集まり中身を具体化していきます。開催地である千葉県連協では、チラシ作成、申込受付、受講票発送など事務作業をすべて行なっていきます。その他、当日の道案内や会場設営などは千葉県内の各地域へ協力をお願いします。もちろん、要員をしながら参加することができます。参加目標700名！地域の人に声をかけて参加しましょう。